

議案第3号

平成27年度公益財団法人富山市ファミリーパーク公社

事業計画について

定款第7条の規定により、平成27年度公益財団法人富山市ファミリーパーク公社事業計画について理事会の承認を求める。

平成27年3月23日提出

公益財団法人富山市ファミリーパーク公社

理事長 中村 純

平成27年度 事業計画

自 平成27年4月 1日

至 平成28年3月31日

I 基本方針

「人を元気に、森を元気に、いのちを元気に、地域を元気に」をコンセプトに、呉羽丘陵の豊かな自然の中で、日本産動物の飼育展示や希少野生動物の保護増殖、在来家畜の保存を行い、里山を活用し、多様な生物の世界や、いのちのつながりを伝えるとともに、園内の里山を整備し市民とともに新しい里山づくりに取り組む。また、近隣の地域住民・各施設団体と連携して無料区域から呉羽丘陵一帯につながる事業を充実させ、地域に根差した園づくりを進めていくとともに、北陸新幹線開業を契機としてファミリーパークをはじめとする呉羽丘陵一帯の里山の魅力を県内外に向け情報発信し誘客事業の充実を図り新規顧客の獲得と利用者の拡大を図る。

さらに、ファミリーパーク新整備計画に基づく整備を推進していくとともに、「環境未来都市」に関する取組みに引続き参画することにより市民が自然により親しめる市民本位の事業を計画し、コンパクトな街づくりに連動した、市民の健康寿命の延長に寄与する魅力あふれる施設運営を目指す。

II 事業計画

1 ファミリーパーク新整備計画及び「環境未来都市」に関する取組への継続参画

(1) ファミリーパーク新整備計画に基づき、森の冒険エリアの整備に関わり、無料区域から呉羽丘陵全体へと伸びる里山を活用した体験プログラム開発に努めるとともに、今後の整備計画について引き続き富山市と協議を進める。

さらに、呉羽丘陵を舞台にした「環境未来都市」に関する取組（フィールドミュージアム形成プロジェクト）に引き続き参画し、富山市や各団体、大学等と連携を図りながら事業を推進する。

(2) 有料・無料区域の各種事業のプログラムの開発と、呉羽丘陵全体の里山と自然等活用した事業をコーディネート、プロデュースできるシステム作りを検討する。

(3) ファミリーパーク新整備計画の整備状況を見ながら富山市と協議し、現状に見合った愛称づくりについて検討を行う。

2 公益目的事業

(1) 施設管理事業

・快適な園内環境を来園者に提供するために、建物及び設備等施設の維持管理を行う。

・施設の安全対策の徹底や老朽化に伴う改修計画を行い、利用者の利便性の向上を図る。

・入園料の徴収受託事務を行う。

(2) 動物管理事業

いのちの大切さや、人と動物の関わりや文化、生物の多様性を伝えることを目的に、動物の展示・収集と教育啓発に努めるとともに、国内外の動物園や研究施設、関係省庁等と連携し、日本及び外国産の希少野生動物の繁殖技術の確立に取り組む。特に、平成27年度からは環境省のライチョウ保護増殖事業計画に基づいてニホンライチョウの飼育繁殖にも取り組む。さらに、在来家畜などを活用した動物とのふれあいを通して命の大切さや人と動物の関わり大切さを伝える。

また、富山市が進めていくファミリーパーク新整備計画事業における、「いのち体験エリア（仮称）」（森といきもの体験ゾーン）の事業計画や整備計画について参画していく。

①飼育展示事業

動物の行動展示を充実させるとともに積極的な動物収集及び繁殖計画を推進し、いのちの大切さを伝える。また、里山生態園の展示の充実を努め、野生動物と人と里山環境との関係について伝える。さらに、日本在来家畜の展示を通して、日本人との関わりや文化を伝え、その普及と保存に努める。

また、動物種ごとにコレクションプラン（展示、収集、繁殖計画）を作成し、これに基づいて事業を実施する。

②繁殖研究事業

動物種ごとにコレクションプランを作成し、これに基づいて繁殖に取り組む。特にニホンライチョウなどの日本産希少野生動物について、他の国内飼育園館や関係機関等と連携して、繁殖研究に取り組み、飼育繁殖技術を蓄積し、保護増殖に努める。

③教育啓発事業

動物を活用した各種ガイドや入園者サービスにつながるイベント、実習・研修などの体験プログラムを充実させ、動物そのものから動物をとりまく環境まで幅広い情報を正しく、楽しく伝える。また、こどもどうぶつえんにおける動物とのふれあいを通じた、生物の多様性やいのちの大切さを実感できる体験活動の拡充を図る。

④調査研究事業

様々な動物の飼育展示・繁殖、教育啓発に関する調査研究によって得られ

た成果や情報を展示や解説活動、出版、各種研究会発表などで発信する。

⑤在来馬保全活用事業

木曾馬や野間馬、対州馬などの在来馬の展示や乗馬体験事業の展開と充実を図り、日本人と在来馬の関わりや文化を伝え、その普及を図る。さらに他の在来馬の新規導入につとめ、在来馬の保存に努める。

⑥ライチョウ保護増殖事業

ニホンライチョウについては、環境省のライチョウ保護増殖事業計画の域外保全実施計画及び日本動物園水族館協会のライチョウ保全計画に基づいて飼育を開始し、科学のおよび技術的な知見の蓄積に取り組む。また、ニホンライチョウとその生息環境の現状を伝え、同種とその生息環境の保全の大切さを普及啓発する。

スバルライチョウについては引き続き、飼育繁殖に取り組み、(公社)日本動物園水族館協会や、国内飼育園館などと連携して情報交換や共同研究を推進し、技術の向上を目指す。

⑦ホクリクサンショウウオ域外保全事業

絶滅危惧種であるホクリクサンショウウオの飼育繁殖に取り組み、企画事業課と連携し、園内を中心とした呉羽丘陵の生息地で域内保全および域外保全に向けた科学のおよび技術的な知見の蓄積に努める。また、その生態展示を通して、ホクリクサンショウウオの生息環境の現状を伝え、里山環境の保全の大切さを普及啓発する。

⑧飼育繁殖技術の継承推進事業

飼育繁殖技術の継承を図るため、人材育成の確立と組織作りを検討する。

(3) 地域事業

地域の施設や住民と連携し、呉羽丘陵に市民が気軽に訪れることができる森の賑わいづくりに取り組む。また、自然や文化などの魅力を引き出し、「時代にあった新しい里山再生のモデル」となることを目指す。さらに、ファミリーパーク新整備計画に基づき、無料区域が呉羽丘陵の活性化や周辺の各施設等の回遊性を向上させる拠点としての役割を果たすため活用を図る。

① 経営企画事業

入園者サービスのさらなる向上を目指すとともに、公益財団法人としての、事業の企画運営、組織経営や新整備計画に基づく、園内の有料・無料区域の運用及び今後の組織体制について検討する。また、「環境未来都市」に関する取組などについて検討を進める。

② 広報・広告事業

ファミリーパークや地域からの情報を集約し、ホームページ等を活用した情報提供の充実に努める。また、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス

の略、フェイスブック等)などを活用した広報活動を引き続き充実させる。

③ 悠久の森事業

本年度は、富山市合併10周年事業として、悠久の森実行委員会と関係団体が連携し開催する、「フェスタ・フォーラム、里山ネット」事業などに積極的に参画し、呉羽丘陵を広く活用した事業の推進に努める。また、実行委員会が取り組む「呉羽丘陵の生きもの保全・普及」事業においては、ファミリーパークのホクリクサンショウウオ保全プロジェクトチームが中心的な役割を担い、地域及び関係団体協働のもと生息地での環境整備活動や小学校への出前授業などの活動に取り組む。

④ 輝けいのちの事業

輝けいのち協議会と連携し、いのちの尊さを普及啓発する事業「輝けいのちの集い」を実施し、小中学校、高等学校などの児童・生徒、PTA関係者などとの連携を深め、さらに定着・発展を図る。

⑤ 地域連携事業

富山市や県内の大学、各種団体など、産官学民との連携を図り、そのネットワークを活用した健康、スポーツ、文化、自然などの行事や、教育活動を独自に企画実施し、このことにより、幅広い年齢層を対象にファミリーパークや呉羽丘陵の利用を促進し、持続可能な地域社会づくりにつなげる。

⑥ ボランティア活動支援事業

NPO法人きんたろう倶楽部・市民いきものメイトや、企業、奉仕団体等による園内での整備活動などのボランティア活動を支援するとともに、活動の園内誘致に努める。

⑦ 活性化事業

ゴールデンウィークや夏休みなど、季節に応じたイベントを企画・実施するとともに、無料区域の活用を図りながら収益事業の拡充を図る。また富山市や公共機関、学校、企業団体などが主催するイベントに協力する。

(4) 里山事業

園内の自然を活用し、市民が体験を通して楽しみながら里山を知ることができる事業を行う。また、その自然環境と生物多様性の保全を図り、里山に生息する野生動植物等の啓発活動を実施する。

園内に水力、太陽光、風力の発電装置を展示し、環境未来都市に関わる取り組みに参画し、事業の推進を図る。

① 里山活用事業

ムササビや野鳥の巣箱カメラや、カブトムシ・ギフチョウの給蜜器など動植物の観察装置を充実させるとともに、季節等の状況に合わせた自然ガイドを実施する。

呉羽丘陵の自然や散策に関する情報を更に充実させ、呉羽丘陵の入り口としての当園の価値をさらに高め、利用を促進する。

ITを活用した情報発信の強化を図り、リピーターの獲得に努める。

②里山保全管理・整備研究事業

ホクリクサンショウウオやホタルの域内保全を各事業と連携して進める。また、ギフチョウやカブトムシなど多様な生き物がすむ環境を保全し、さらにどう活用するか引き続き研究する。

3 収益事業等

(1) 収益事業

ファミリーパーク施設の利便性を向上させる事業及び新整備計画における無料区域での食や賑わいを創出する事業を推進する。

①収益事業の拡大

・無料エリアにおける収益事業の拡大を図る。

②売店・食堂事業

・季節やイベントに合わせた出店や移動販売を行う。
・ファミリーパークのオリジナル商品の開発に努める。

③ホースライド事業

・引き馬による乗馬、乗馬教室、障害者乗馬会などの乗馬体験や馬のエサやり体験などを行う。
・セラピー効果を目的とした乗馬体験や講習会を企画するとともに、学校教育団体を対象としたホースセラピーに関わる体験プログラムの開発に努める。

(2) その他の事業

① 遊園地維持管理運行事業

・施設の老朽化に伴う安全対策の徹底を図る。
・各種法定検査を実施しながら、運行の安全性の維持を図るとともに、今後の運営について市と協議する。
・遊具使用料の徴収受託事務を行う。

② 森の冒険体験事業

・富山市の実施計画に基づく自然体験施設等の整備を進めるとともに運用方針の検討を行う。

4 法人会計

(1) 公益財団法人として適正な運営に努める。

(2) 公社の財務会計及び予算・決算等の経理を行う。

(3) 平成28年度以降の指定管理者の指定の更新に努める。

5 ファミリーパーク施設使用料徴収受託事業

入園見込数	内 訳		
	有料エリア	有料入園者数 無料入園者数	77,030 人 180,370 人
	無料エリア	入園者数	72,600 人
		総入園者数	330,000 人
入 園 料	42,251千円	個人大人 500 円 × 57,300 人 = 28,650,000 円 団体大人 400 円 × 9,700 人 = 3,880,000 円 個人70歳以上 250 円 × 400 人 = 100,000 円 共通パスポート(販売) 1,000 円 × 9,600 人 = 9,600,000 円 3日間共通パスポート 700 円 × 30 人 = 21,000 円	
遊具使用料	21,300千円	アニマルコースター等 200 円 × 86,455 回 = 17,291,000 円 電気周遊車 100 円 × 20,678 回 = 2,067,800 円 ボート 400 円 × 4,853 回 = 1,941,200 円	
合 計	63,551千円		